

【資料2】
平成22年度 唐津市立相知小学校 学校評価結果

1 学校教育目標
心身ともに健やかに個性豊かな意欲あふれる児童の育成

- A:十分達成できている
 B:おおむね達成できている
 C:やや不十分である
 D:不十分である

2 学校経営ビジョン
「心身ともに健やかに個性豊かな意欲あふれる児童の育成」という学校教育目標に向かい、「ニコ・キビ・ハキ・ドン」を相知小の合い言葉として取り組んでいる。「ニコニコ笑顔で挨拶ができる。キビキビ態度で活動ができる。ハキハキ言葉で受け答えができる。ドンン意欲で取り組むことができる。」子どもの育成に努めるため、教職員も率先垂範を心がけている。教職員の役割は下記3点である。 1. 中学校との連携を図りながら、授業研究会を推進し、指導実践力の向上に努め、「確かな学力」の育成に努める。 2. 人権・向和教育の視点に立って、児童一人一人の「よき」を見出し、学校生活での意欲へとつなげ、調和のとれた人格形成に努める。 3. 教職員一人一人が経営参画意識のもと、学校評価などにより家庭・地域との相互理解を図り、信頼される学校づくりを推進する。

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
(1)中学校との連携を図りながら学力向上をすすめる ・国語の授業を中心として「話す・聴く・伝え合う」活動を授業の中で活かす ・くり返し学習で基礎・基本の定着を図る(スキルタイム等) ・小中一貫した学習規律の確立を行う(授業やスピーチタイムで話し方・聴き方の指導) (2)「ニコ・キビ・ハキ・ドン」な元気で意欲あふれる子どもを育てる生徒指導(教師の気配り・目配り・地域との連携) ・あいさつ指導の徹底(地域の中で) ・清掃指導の徹底 ・計画的・積極的な仲間づくり ・問題行動等の早期発見・早期対応 (3) 育友会が主体となって、保護者・家庭・学校が連携した基本的生活習慣の定着「早寝・早起き・朝ごはん 歩いて登校 声に出して本読み」の推進	学力向上については、唐津地区基礎学力テスト等の結果から、基礎・基本の定着はある程度図れたと考える。しかし、各種学力テスト(CRT等)の結果から考察すると、国語・算数の活用力を伸ばしていく必要がある。発展的な学習も取り入れ、伸びる児童をさらに伸ばしていく指導方法の工夫が課題である。また、生徒指導面では、「ニコ・キビ・ハキ・ドンな子どもになろう!」という合い言葉のもと、あいさつと掃除の指導を中心に、職員が丸となって取り組んだ。そのため、子どものあいさつの仕方や掃除への取り組み方が良くなってきた。しかし、地域においてはまだまだあいさつの仕方で不十分な面も見られた。地域や家庭の理解・協力を得て、中学校との連携を図りながら地域の中でも変わらぬあいさつができるように取り組む必要がある。保護者・家庭と連携し取り組んでいる「早寝・早起き・朝ごはん 歩いて登校 声に出して本読み」の推進については、学校が主体となっている面も見られたので、育友会が主体となって進めていけるような体制づくりが必要である。

5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・重点目標3点についての保護者の認知度を、80%以上にする。	○学校の合言葉及び保護者、家庭の合言葉については、「そう思う」80.2%「どちらかといえばそう思う」13.6%と目標数値以上の結果がでていた。 A ○自主的に学校公開の場を設定し、保護者だけでなく相知中・伊岐校小の職員、地域、教育委員会の方にも国語の授業を公開することができた。また水曜日の午後の時間帯にもかかわらず参観者も多かった。 ○中学校との連携を図りながら学力向上をすすめることについては、「そう思う」54.9%「どちらかといえばそう思う」27.6%と目標数値に達することができた。	・統合により加わった田頭校区を含め、全校区に学校の合言葉(ニコ・キビ・ハキ・ドン)と保護者・家庭の合言葉(早寝・早起き・朝ごはん、歩いて登校、声に出して本読み)を知らせる。学校だよりや育友会・地区の会議等を利用して、周知方法を工夫する。 ・保護者参観において、国語の授業を年1回以上必ず行う。	○学校の合言葉及び保護者・家庭の合言葉については、全校集会や学校だよりをはじめ、各学級の懇談会、育友会の会議等で周知を図ったので、ほとんどの保護者に浸透してきたと言える。 ○全校級担任が国語の授業を実施し、多くの保護者・先生等に公開することができ、本校の研究について周知することができた。今後は、授業の質をより高めることで、子どもたちの学力を伸ばしていくことが必要である。 ▲ 中学校との連携については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」とを合わせ82.8%と目標数値には達しているものの、保護者に浸透していない部分があることを示している。来年度は、小中が連携して教育に取り組んでいる姿をアピールすると共に、子どもたちの成長する姿でその成果を表していく必要がある。
		小中連携の推進	学習面・生活面において、相知町内の小中学校が一貫した指導をしていると感じる保護者を70%以上にする。	○小中連携の周知に関しては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」とを合計すれば82.5%で、目標に達している。 B ▲具体的な取組が決まった程度で、広報や参観等の回数が少なかった。	・相知町内の小中学校で、研究授業等の公開を行い、相互に参観をする。 ・小中連携の話し合いの場を持ち、学習規律等について共通理解をし、実践する。	○今年度からの「小中連携」であったが、保護者に対する啓発はできた。(小中と同じ方向で取り組んでいるという雰囲気は理解してもらった。) ▲ 小中連携の内容についての意識をもっと高めていく必要がある。そして、家庭生活や、家庭学習面で大いに協力してもらう必要がある。
		保護者等と連携協力した基本的生活習慣の徹底	朝ごはんを食べてくる児童100%を目指し、バランスのとれた朝ごはんを食べてくる児童を70%以上にする。	○通信等で、朝食の大切さを伝えていった結果、バランスのとれた朝食について関心を持つ保護者が増えてきた。 C ▲保護者へのアンケートの結果、「バランスのとれた朝食を食べている」ということについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」とを合わせて68%であった。	・育友会と連携し、「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進する。不十分な児童には家庭へ個別に依頼する。 ・バランスのとれた朝食については給食だよりや保護者だより等で啓発を行い、アンケートを実施する。	○給食だよりや保健だよりをはじめ各種通信で、朝ごはんの大切さを保護者に啓発することができた。 ▲ バランスのとれた朝食摂取については、来年度もたよりを通して行っていく必要がある。また、個別の指導も根気強くしていく必要がある。
		元気で意欲あふれる子どもを育てる生徒指導	・挨拶が進んできていると自信を持って言える児童を80%以上にする。 ・無言掃除ができている児童を80%以上にする。	○児童の生活アンケートでは、「元気に挨拶をしている」という答えが70%までには届かなかった。また、学校での子ども達の様子からもまだまだ指導が必要であるという意見が多かった。 C ○無言掃除は生活アンケートの結果、80%以上が達成できたと回答している。	・学級単位で児童とともに、あいさつ運動を年間を通して展開する。 ・掃除を職員もいっしょに取り組みながら、手順・方法をきちんと指導していく。	○掃除指導は、教師が児童とともに掃除しながら指導することにより、無言でいっしょに取り組むことができた。 ▲ 挨拶の取り組みでは、挨拶運動だけでなく、学年や学級での声かけを頻繁に行い、挨拶の大切さを啓発する必要がある。
教育活動	学力向上	基礎基本の定着と思考力の育成	・家庭学習の習慣化を図る。目標時間(最低10分×学年+10分)とする。 ・算数・国語を中心に全学年、唐津市学力テストで80点以上の合格者を85%以上とする。 ・各種学力テスト(目標標準学力調査(CRT)等)において全国平均に近づく。 ・年間1回以上、全職員が授業研究実施。	▲アンケートでは、6割の児童が、決められた時間以上に家庭学習を行っていたが、4割の児童は家庭学習時間が少ない。 ○唐津市学力テストは、国語算数ともに、平均94点以上である。不合格者は国語は26人から13人へ、算数は48人から11人へ減ってきた。不合格者は、国語3.6%、算数3%である。 ○目標標準学力調査(CRT)において、国語・算数ともにほとんどの学年で全国平均を上回った。(80%以上) ○校内研究で、国語の授業を全員行った。	・家庭学習については、アンケート調査を行い、実態を把握し、改善のために、家庭学習の内容と時間について見直しを行う。 ・教師が授業において、子どもたちに学ばせる基礎的事項をきちんと整理し、理解の具合に応じて補充や発展的な内容を取り入れていく。 ・各種学力テストの結果を分析し、子どもの実態に応じて補習を行う。 ・全職員が研究授業を通して、思考力を育てる授業のあり方について研究を進める。	○唐津市学力テストでは、全学年、目標達成できた。不合格者の数も減ってきて、平均も大幅にアップした。 ○校内研究を全員が行った。グループや全校で協議し、講師の先生の助言を受けながら、授業力を高めることができた。 ▲家庭学習時間が短い。保護者への啓発とともに、児童自身が意識できるような声かけが必要である。
		多読の推進	・年間の読書冊数は全児童1人50冊を目指す。 ・図書室を積極的に活用する。	○図書室からの貸し出しの状況は、2月末で年間50冊以上借りた児童が全体の82.9%で、進んで読書に取り組んでいる。 B ○休み時間を利用して、多くの児童が図書室に来て好きな本を探し読んでいる。 ○学年に応じた。授業に関連した図書を紹介をしたところ上手に活用している。	・読書カードを活用し、多読者にはミニ賞状やお楽しみ券を渡すなどし、読書への意欲を高める。 ・児童が興味を持つような企画を計画したり、図書コーナーの工夫をしたりして、図書室に足を運ばせる。 ・学級図書を整備し、気軽に読める環境を作る。 ・図書だよりで、親子読書等、保護者への啓発を行う。	○読書強化月間や読書強化学期を設けて、週2回以上は図書室に行き本を借りるように働きかけたところ進んで本を借りようになり、読書数が高まった。 ○読書パスルや読書ビンゴの取り組みは、本をたくさん借りたり、いろいろなジャンルの本を借りたりするきっかけ作りになった。 ○行事や学習に關係する図書を紹介したところ、喜んで本を読み、活用する姿が見られた。 ○50冊以上本を借りている児童は全体の82.9%で、ミニ賞状やお楽しみ券を励みに進んで本を読んでいた。 ▲学年・個人に合った図書をいかに紹介していくかは今後の課題である。
		心の教育	・構成的グループエンカウンターやグループワークなどにより積極的な仲間作りを行い、前よりもっと友達と仲良しになったと言える子どもを80%にする。 ・問題行動の早期発見・早期対応を行う。 ・週1回の道徳の時間の授業を充実し、年1回以上の参観授業を行う。	○アンケートでの結果により、前よりもっと友達と仲良しになったと言った児童は、90%以上いた。このことから、積極的な仲間作りに取り組んだ成果が現れているといえる。 ○月1度の生活向和と教育研修会を行い、各学級で起きている問題行動について共通理解を図り、その対応策を教師集団が一丸となって取り組んでいるため、早期発見・早期対応ができている。 ○年間計画に基づいて道徳の授業を行い、時には児童の実態に合わせて投げ入れ教材を取り入れたり、部落問題学習を意図的に学校行事と絡めて行ったりしながら心の教育を深化させている。 C ▲学級活動の充実を図るために、子どもたちの身近な問題に目を向けさせ課題化し、話し合い活動やその実践を行ってきたが、学校行事などの関係で十分な時間が取れたとまではいかない。	・なかよしタイムで人権に関わる話を行い、計画的に人との関わり方について考えさせる。 ・年間3回、生活アンケートや教育相談等で実態把握を行うとともに、保護者と連携し解決に努める。 ・道徳の副読本の活用を図り、道徳の内容について通信等で保護者に知らせる。	○月一度のなかよしタイムを受け、各学級では、各月のねらい(視点)に合わせ仲間作りを行ってきた結果、支持的風土のある学級作りが実現された。 ○生活面での児童の実態把握と教師間の共通理解とを密に行ってきたので、問題行動の早期発見・早期対応ができていた。 ▲心のノートを活用と部落問題学習に対する取り組みに各学級で温度差があるので、各学年でもう一度年間計画を見直し確実に実践していくことが課題である。
健康・身体づくり	外遊びの推進	・昼休みに、外で遊ぶ、「体を動かすことが好き」だと答える子どもを80%以上にする。	○1学期、2学期と年間2回のアンケートを取り、「体を動かすことが好き。外遊びが好き。」と答えた児童が85%から89%に伸びた。 A ○晴れた日は多くの児童が外で元気に遊んでいる姿を見かけた。また、雨の時は学年別に体育館を開放したが、その際も多くの児童が体育館を利用し、元気に体を動かしていた。	・子どもたちが興味を持つと思われる外遊びを、すくすくタイムで体験させる。 ・体育学習の工夫(カリキュラムの工夫)を行い、体を動かすことが好きな子どもを増やす。 ・日々の委員会からの放送や担任からの呼びかけで外遊びを奨励する。	▲すくすくタイムで様々な外遊びを紹介し、実際に体験させる機会を設けたが、雨や祝日等で計画的に実施することが難しかった。 ○領域や種目に応じて適宜学習カードを使い、児童がもてあそばせて体を動かすことができるようになった。 ○20分休みは、職員のみならず体育委員会の児童も積極的に外遊びを呼びかけることができた。	
特定課題	低学年の学習環境の充実	基本的生活習慣と学習習慣の育成確立	・基本的生活習慣及び学習習慣について指導項目を設定して指導し、達成率80%以上にする。	○基本的生活習慣及び学習習慣については、低学年で共通理解をし、指導項目をチェックし80%以上を達成することができた。 A	・整理整頓・忘れ物・提出物についてきちんとチェック指導を行う。 ・連絡帳や通信などにより家庭と連携を密にした指導を行う。	○整理整頓や忘れ物は、何度も繰り返し声かけをすることで、ほとんどの児童ができるようになった。提出物は、ほとんどの児童が守られている。ただ、数名守れない児童がいるので、保護者と連携をとりながら指導を行った。また、連絡帳や通信等で家庭との連携をしっかりとることができた。

●は共通評価項目、○は独自評価項目

6 総合評価
●本年度の重点目標である「中学校との連携を図りながら学力向上を進める。」という点については、相知町内3小中学校が足並みをそろえて進めることができた。校内研究においても、全員1~2回以上の授業研究を行い、国語科を中心に指導力の向上を図ることができた。また、児童の学力においても向上が見られた。唐津地区の基礎学力テストは、どの学年も合格率85%以上に達し、目標標準学力調査(CRT)では、全国平均を80%以上の学年が上回ることであった。 ●生徒指導面では、掃除指導において、無言掃除が浸透しはじめたことは、大きな成果であると言える。しかし、地域や家庭を巻き込んだのあいさつ運動の取り組みは徹底できたとは言えない。児童のあいさつの仕方に、指導を繰り返して行ってきたが、まだ不十分であると感じている。育友会をはじめ各種団体とも連携をとりながら、学校ではもちろん、地域の中でもしっかりと元気にあいさつができる児童に育てていく必要がある。 ●年間50冊の読書については、前年度は学級文庫も含めていたが、本年度は図書室に限定して行った。図書室へ足を運ぶということで、年度の前半は伸び悩んだ部分もあったが、各学級の担任の呼びかけにより、50冊以上の児童80%を超えることができた。 ●心の教育に関しては、各種アンケートを活用し、仲間作りという観点から学級作りを行ってきた。その取組の結果、前よりもっと友達と仲良くなったという児童が増えたことは大きな成果である。 ●外遊びの推進については、担任や委員会からの放送等で、積極的に外遊びを行う児童が増えた。 ●低学年の学習環境の充実に関しては、年々、難しい児童が増えてきている。学年間や家庭との連携を密にして、目標を達成することができた。

7 来年度の改善策
●中学校との連携を図りながら学力向上を目指していくことは、本年度、大きく前進してきた。しかし、学習規律や家庭学習の仕方をはじめとする、学習面・生活面での細かな部分についても、小中一貫した流れを作っていく必要がある。家庭の協力を得ながら、実践化できる取り組みを行いたい。また、授業研究を充実し、児童の基礎・基本の定着を図っていくための教師の指導力向上を目指したい。 ●「ニコ・キビ・ハキ・ドン」を合言葉に、元気で意欲あふれる児童の育成を目指している。バランスのとれた朝ごはんや元気があふれる等、家庭や地域への協力が必要な事項についての徹底が不十分であったので、育友会を中心として、実践化に結びつくような取り組みを行いたい。 ●心の教育の「自ら考え、自主的に活動できる子どもの育成」に関しては、具体的方策の見直しが必要である。学校行事や各種行事への取り組みの中での、自主的な話し合い活動も含めていく形で取り組みを行いたい。 ●健康・身体づくりの中で、外遊びの推進とあわせて体力向上も推進したい。すくすくタイムの内容を見直し、個人でのなわとび等の取り組みを行い、体力向上を図りたい。